

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



8



長田 雅美

高島獣医科魚津病院長
(魚津市本江)

ワンちゃん、ネコちゃんが「まさかこんな物を」と思うような物を食べてしまうことがよくあります。今回は手術しないと治せない、腸閉塞を起こしかねない危険な物についてお話します。

私が今まで手術で摘出したことがあるのは、軍手や靴下、タオルなどのポロ切れ、子どものおもちややスパーボール、鉛筆や消しゴム、縫い針や糸、毛糸の固まり、釣り針、座布団やクッションの綿やスポンジ、つまようじ、焼き鳥の串、アイスクリームの棒やスプーン、トウモロコシの芯…。書き出したらきりがありません。開業獣医師なら何回も手術で見たこと

食べると危険な異物

がある物ばかりなはずですが。何か変な物を食べたといっても、胃から腸を進んでいって便と一緒に出てくれば何ら問題はないでしょう。しかし、ワンちゃんやネコちゃんの大きさによって胃の大きさや消化管の大きさも違いますから、どれくらいの大きさの異物までなら大丈夫という決まりはあ

りません。飼い主さんもわざと食べさせることはないでしょうが、食卓の上で載っている物を盗み食いすることもありますし、飼い主さんが手に持っている状態で、バクッと奪い取っていく場合もあります。ゴミ箱をあさったり、散歩のときに拾い食いついたりすることもよくあります。針や糸は、裁縫をしている横で遊んでいて食べてしまうことが多くていしょうか。

と取り出す必要があります。腸閉塞の症状もいろいろです。当然食欲はなくなります。お腹を痛がったり、何回も嘔吐したりする症状が急に現れることもあります。異常が見られたら、血液検査やレントゲンで体を調べます。金属や石などはレントゲンで写ります

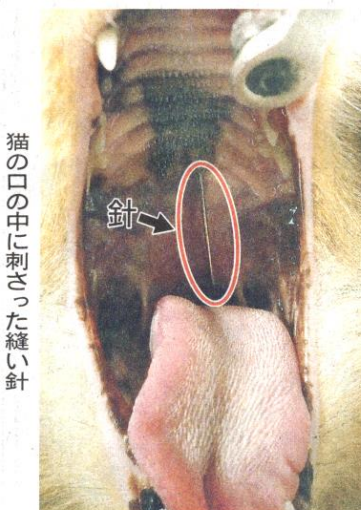
飼い主が気を付けて

りません。

飼い主さんもわざと食べさせることはないでしょうが、食卓の上

とがった部分がない小さな物なら、食べてすぐ注射薬で吐かせることもできますが、大きな物や先

が、布製品やプラスチック製品は写りませんで、造影剤を飲ませることで胃や腸に異物があるかどうか検査することになります。



猫の口の中に刺さった縫い針

がとがっている物は胃や食道に刺さったり、傷つけたりしてしまふ可能性があるため、吐かせることも危険です。麻酔をかけて胃カメラで摘出したり、おなかを開いて胃や腸を切っ

飼い主の皆さんは、散歩のときなどに歩きながら何か口に入れてしまわないか、しっかり見ていることが大切です。くずかごやゴミ箱のふたを閉めて、動物が届かない場所に置いておくことなども心掛けてください。食卓の上の料理にも常に気を付けましょう。